

図書だより

NO.25

平成29年12月1日発行
函館工業高等専門学校



目次

| | |
|--------------------|---|
| 小学校でつまずいた大人のための本… | 1 |
| 特集 学生の読書感想文…………… | 2 |
| 退職教員の読書エッセイ…………… | 4 |
| 若手教員からのおすすめ本…………… | 5 |
| 私の国の図書館（モンゴル）…………… | 6 |
| 図書委員の活動報告…………… | 6 |
| 本校教員執筆図書紹介…………… | 8 |
| 学年・学科別利用状況…………… | 8 |
| 編集後記…………… | 8 |

小学校でつまずいた大人のための本 図書館長 新田 一夫



タイトル：いちばんさいしょの算数(1)
たし算とかけ算
著者名：橋本 治
出版社：筑摩書房

函館高専図書館の蔵書は約8万冊。図書館としては小さいかもしれないが、その8万冊の本の森は、大き過ぎず、むしろ気軽な散歩に適している。散歩をしながら思いがけない本との出会いを楽しんでほしい。

先日は、橋本治著「いちばんさいしょの算数(1) たし算とかけ算」(ちくまプリマー新書)という本と出会った。橋本治というと「桃尻娘」にしか結びつかない読者もいるかもしれないが、博学多識な随筆家として多数の著書をもつ。その中にこのようなシリーズがあるとは知らなかった。

新書判のこの本を開くと、まず誰もがその異様さに気づく。最初から最後までほとんど平仮名で書かれているからである。「この本は、小学校の3年や4年のときにならった算数のことが、ぼーっとわかってわからなくなっている人のための本です」とあるように、表面上は小学生を対象としているからであろう。しかし内容はむしろ「ぼーっとわかってわからなく」なったことのある大人に向けて書かれている



タイトル：向日葵のかっちゃん
著者名：西川 司
出版社：講談社

と言ってよい。平仮名だらけの文章は読みにくいが、よく読むと算数の本質をついた表現にもばったりと出会う。「算数というのは、なにとおなじですか？ということを考える勉強」だと言い切る一文は、教える側に対する助言としても秀逸である。また、数の名前や用法を他の言葉に置き換えるとどうなるかを延々と述べるくだりは、大人にとっては抱腹絶倒のものである。一読を薦めたい。

もう一冊、まだ本校図書館の蔵書にはないが、筆者の高校時代の同級生である西川司という函館在住の売れない作家の本を紹介したい。「向日葵のかっちゃん」というタイトルで、現在は文庫版(講談社文庫)が出ている。小学校時代に「ひまわり学級」と呼ばれる特殊学級におかれ、勉強につまづき続けていた著者自身の自伝といってよい本作品は、2007年の初版から細々とロングセラーを続け、函館市内の短大では教材としても使われている。つい先日東京で初の舞台化もされた。この場を借りて、こちらも一読を薦めたい。

特集

学生の読書感想文

泊先生の
ビブリオバトルの授業で、
チャンプになった本の読書感想文です。



「キノの旅」を読んで

タイトル：キノの旅～the beautiful world～
著者名：時雨沢 恵一
出版社：アスキー・メディアワークス



2年生産システム工学科1組
池田 慈英

「キノの旅」は、旅人の少女キノとその相棒である二輪車のエルメスが、様々な「国」を旅していくという至ってシンプルな内容の旅物語です。

「国」と言っても、キノの旅の世界では我々の世界とはまた違った「国」が存在しています。例えば、国政をすべて多数決で執り行い少数派を処刑していった国、極秘裏に超大型の大砲を開発している国、存在している全てのものに規格を設けた結果何もかもが安全すぎる国、国民全員がテレパシーの能

力を持っている国……など、個性豊かな国が存在しています。

キノの旅のもう一つの特徴は、戦闘シーンにあります。作者の時雨沢恵一先生は、実は重度のガンマニアで、銃器・兵器に関する知識がとても深い方です。無論キノはリボルバーと自動拳銃の二丁を携帯しており、それを使った戦闘シーンも必見です。

10月からはアニメも放映される人気作「キノの旅」、是非一度読んでみてはいかがでしょうか。



「裁判長！桃太郎は「強盗致傷」です！ むかし話を刑法で裁いたら」を読んで

タイトル：裁判長！桃太郎は「強盗致傷」です！むかし話を刑法で裁いたら
著者名：小林 剛
出版社：永岡書店



2年生産システム工学科2組
黒谷 風介

突然ですが、「桃太郎」や「浦島太郎」などのむかし話やおとぎ話がありますが少しでも内容を覚えていますか？

今回僕が読んだ本は題名から内容の想像がつくかもしれませんが、『むかし話の主人公をその物語の悪役が裁判所に訴えたらどのような判決になるのか』をある弁護士が監修しまとめたもので、日本のおとぎ話から世界の童話まで計28話が現代の刑法で裁かれています。その中でも僕が一番気に入ったのは、題名にもある「桃太郎」を裁いている場面で

す。桃太郎のお話は『桃から生まれた桃太郎が動物の仲間を率いて鬼を退治し、盗まれたお宝を取り返す』となっています。しかし、それは桃太郎たち側から見た内容です。鬼目線で見ると、確かに村からお宝を盗みましたが一方的に襲撃されお宝を取り返されています。そこで鬼は桃太郎を強盗犯として裁判を起こします。桃太郎への刑罰には驚いて面白かったのですが、一番は桃太郎と鬼の主張が面白かったです。



「TED驚異のプレゼン：人を惹きつけ、心を動かす9つの法則」を読んで

タイトル：TED驚異のプレゼン：人を惹きつけ、心を動かす9つの法則

著者名：カーマイン・ガロ

出版社：日経BP社



2年生産システム工学科3組
早瀬 匠

僕が『TED脅威のプレゼン』という本と出会ったのは、部活動でした。僕は部活動で人の前に出て発表する機会が多くあり、うまく人前で話せるようになりたいと強く思うようになりました。そこで部活の部費で役に立つ本を買うということがありこの本と出会いました。

この本に書いている内容を要約すると、TEDという論文発表の場でされた素晴らしいプレゼンをいろんな観点から分析したり、実際にそのプレゼンター

のインタビューをしたりして、誰でもうまくプレゼンができるコツを書いている本です。

例えば、ビル・ゲイツがしたTEDでのプレゼンは「驚き」を演出することにより、聴衆の心を掴みました。僕はこの本を読んでプレゼンに対する考えが変わりました。プレゼンの下手な人にも、またうまい人にも薦めたい1冊となっています。これを読めばプレゼンだけでなく普段の会話もうまくなると思うので、ぜひ手にとって読んで欲しいです。



「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」を読んで

タイトル：色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年

著者名：村上 春樹

出版社：文藝春秋



3年物質環境工学科
山下 将大

色の持つ印象はどんなものだろうか？例えば、赤が情熱的で温かく、黄色が活発で明るいなど、私たちは知らぬうちにその影響を受けているように思う。

この作品の人物には皆、苗字や名前には「白」や「緑」などの色を表す漢字があるが、主人公の多崎つくるという名には含まれておらず、つくると彼をとりまく友人たちには違いがあったものの、彼らは仲が良かった。しかし、彼は大学時代のある日、親しい4人の友人から理由も告げられずに絶縁され、

孤立してしまう。16年たっても彼はずっと忘れることができず、この事件の真相を知るべく巡礼の旅に出る。

つくるの様子は序盤では、まるでモノのように描かれており、その名前と合わせて「色彩をもたない」のだと思ったが、旅に出て、かつての友人を訪ねると「色」を得たように、その言動に関する描写が繊細になるのを感じた。そして、読み進めるにつれて、色の印象が一変し、色だけでは表せない人間の多様性を感じた。



「永遠の0」を読んで

タイトル：永遠の0（ゼロ）

著者名：百田 尚樹

出版社：太田出版



2年社会基盤工学科
加藤 佑典

僕は、この本を読んで強く感じたことが二つあります。

一つ目は、太平洋戦争というものについてです。この本は、実話とフィクションが混ざった内容になっています。実話を元に描かれているので、当時の状況を知ることが出来ます。それらを読んでいると、僕も少しながら、戦争というものを感じました。

二つ目は、家族愛です。この本には、有名なフレ

ーズがあります。それは、「必ず生きて帰ります」です。この言葉にどのような意味があるのかというと、戦時中、家族のことなんか話せなく、命を懸けて戦っている時代に生きて帰りたいというのは、紛れもない家族への精一杯の愛情表現なのだと思います。

よって、僕はこの本を、戦争を知らない多くの人たちに読んでほしいと思います。



物質環境工学科
鹿野 弘二

今回、読書エッセイの依頼を受けた時「乱読のすすめ」というタイトルを思い付き、準備のためネット検索したところ「乱読」、「多読」、「精読」、「積読」のすすめの内容が多くあり、今更このタイトルはないと気がきました。

私は若い頃SFが好きで、小松左京、筒井康隆、A.C.クラークなどを読みました。社会人になってから、放射線施設での仕事に就いたため放射線管理や実験のため、関連する法律、化学、物理、生物など色々な分野の専門書にも触れましたし、種々の分野の本も読んできました。これまでに特に印象に残っ

「活字に親しみましょう」

ているのは塩野七生「ローマ人の物語 全15巻」、司馬遼太郎「坂の上の雲 全8巻」、福永武彦「死の島」です。興味のある方は一読をおすすめします。

最近はや時代物、歴史物を良く読みます。昔父親がTVの「水戸黄門」を見て喜んでる姿を馬鹿にしておりましたが、父と同じ年頃となり、TVではありませんが、読んでいて痛快であったり、当時の庶民の様子を感じることで日々の疲れを取っています。

老眼に至っていない皆様、活字に親しみましょう。

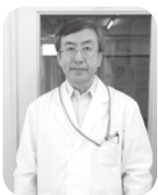


一般人文系
菅原 雅之

青年期の読書が人格形成に有効であることは、吉田松陰ら歴史上の偉人たちが証明している。また、読書は人格形成だけでなく、思考力・判断力を伸ばす一方策であることも万人の首肯するところである。残念ながら吉田松陰は若くして刑死するが、弟子たちは近代日本の原型を作った。もっとも松陰の思想は過激すぎて、弟子は師匠の行動を抑止しようとした。蛇足だが、師の気質は過激なくらいが丁度よいのかも知れない。

「図書館へ行きなさい。」

情報が氾濫する現代において、若者が接する情報を精選することが教員の任務である。情報や流行には作為が含まれるからである。情報・流行を発信した側に正義があるのなら大変結構なことである。しかし、最近のそれらには、信念のない商業主義や不正義としか思えない政治思想が見え隠れする。唯一、不正義や商業主義と無縁な空間が図書館であろう。当方に策がなければ、若者に図書館に行くように勧めることが最善かと思う。



一般理数系
関川 準之助

自分が若い頃にくり返し読んだ、今読んでも色あせないエッセイストをご紹介します。

まずは、伊丹十三。

没後二十年になりますが、「お葬式」「マルサの女」などの映画監督として活躍する以前は、エッセイの名手として知られていました。細かい人間観察と鋭い直感、膨大な量の読書がもたらした教養が支える文章は、若い私にももの見方・考え方を教えてくれました。

二人目は、東海林さだお。

「おすすめのエッセイスト」

一つの文章が終わったら改行する独特の書き方で、とてもスムーズに読み進められます。（本人に言わせれば文章のリズムを大切にしているとか。）その内容は食べ物や旅行、日常を観察したもので、抱腹絶倒、一見、軽薄そうに見えますが、ユーモアとペースにあふれ、ハマると何気ない日常がとても面白く見えてきます。この人は本業は漫画家ですが、漫画よりエッセイが多く刊行されていて、オススメは「丸かじり」シリーズです。

どちらも文庫本で読むことができます。

若手教員からのおすすめ本



生産システム工学科
下町 健太郎

私がかつて函館高専にいたころ、夢中で読んでいたのは教科書よりもむしろ小説でした。中でもこの本は私を「三国志」の世界に引き入れるには十分すぎるほど面白く、今でも解説本を購読するほどです。志を持った若者が立ち上がり、激動の時代の中で魅力的な仲間やライバルたちと出会い成長し、敗北と敗走を重ねながらもついには頂点まで行く。その後はジリジリと悲しいラストへと物語は流れていくのですが、「滅びの美学」もまた趣があります。



タイトル：三国志
著者名：吉川 英治
出版社：講談社

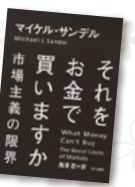


一番好きなシーンは諸葛孔明が赤壁の戦いへと突きつける大論陣です。自分にもプレゼンと質疑応答の能力があれくらいあればなあと、研究発表をする身になってからしみじみと思うのでした。初版は70年以上前なので文体が古いという欠点がありますが、それでも読んでみてください。不朽の名作に触れることは、あなたの人生の幅を広げることになるでしょう。



生産システム工学科
藤原 亮

(注：「タイトル」だけ拾い読みしてください。)



タイトル：本は10冊同時に読め！(*1)
タイトル：なぜ日本人は学ばなくなったのか(*2)
タイトル：知ろうとすること(*3)
タイトル：精神のエネルギー(*4)
タイトル：非属の才能(*5)
タイトル：それをお金で買いますかー市場主義の限界(*6)

(*1)著者：成毛 眞／出版社：三笠書房
(*2)著者：齋藤 孝／出版社：講談社
(*3)著者：早野 龍五、糸井 重里／出版社：新潮社
(*4)著者：アンリ・ベルクソン／出版社：平凡社
(*5)著者：山田 玲司／出版社：光文社
(*6)著者：マイケル・サンデル／出版社：早川書房

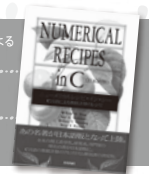


生産システム工学科
藤田 宜久

コンピュータを用いた設計や制御が当たり前になっている昨今、数値計算の知識は必要不可欠と言っても過言ではありません。しかしながら、目的に合わせて様々な手法が存在することに加えて、数学やプログラミングなどの知識が必要になるため、初学者には難しいのも確かです。そのような数値計算をより身近に感じてもらうために紹介する本が「Numerical Recipes in C」です。内容は少し古いですが、プログラムの実例が載っているためコピー



タイトル：ニューメリカルレシピ・イン・シー：C言語による数値計算のレシピ：日本語版
著者名：William H.Press 他
出版社：技術評論社



&ペーストでとりあえず動かすことができます。また、プログラムは簡単な処理の羅列で実行されているため、複雑な理論の理解にも役立ちます。情報・電気・機械問わず、卒業研究などでは大いに活かすことができるかと思います。なお、日本語の訳本もありますが、英語の原本は無料でPDFデータが公開されています。英語の勉強にもなると思うので、興味のある人はぜひ一度手にとってみて下さい。



私の国の図書館



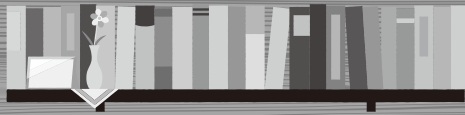
5年社会基盤工学科
ムギ
(OTGONBAT MUNKHSUKH)
留学生(モンゴル出身)

今回は私の出身学校である新モンゴル高等学校の図書館についてご紹介します。高等学校の図書館は生徒や先生などが主に対象とされ、学校の一階に2000年に設置され、そこから、年々本の数も増え、もっと心地よくて集中できる場所となりつつ、学校内の人々だけではなく生徒たちの家族からもとても高く評価されています。

実際には私は小中学校ではあまり図書館に入ることはありませんでしたが、高校生になってから学校の図書館によく入るようになりました。そのきっかけは海外で留学していた先輩たちの話を聞いたからです。何度もその先輩たちに私が「どのように勉強したら先輩たちのよう

に海外で留学できるのですか」という質問をしたら、みんなの話の中でよく出ていたのは図書館という言葉でした。毎日学校の図書館で友達と一緒に勉強していたことが留学するのに大きな影響を及ぼしたと言っていました。その時から私は図書館によく入るようになりました。

このように私は先輩たちのおかげで図書館の意味やメリットなどもよくわかるようになり、さらに日本にも留学できたと考えています。出身学校の図書館はそれほど広くないですが、私にとっては二つ目の家と言え、勉強や本を読むなどには非常に心地良く、心を癒し、のんびりできる雰囲気のところでした。



図書委員の活動報告



図書委員代表に なってみて

2年生産システム工学科3組
早瀬 匠

僕は一度図書委員になり今回図書委員長をやらせていただきましたが、すべての作業が大変でした。まず、ブックハンティング(選書会)という図書館におく本を増やす企画では、人を集めたり、その日の予定など決めるのに苦労しました。そして、その本を図書館においた後はその本の紹介をすべくPOP展示をしました。POPも作るのに苦労しました。やったことのない作業に戸惑いながらだったからです。そして、高専祭の中で開催したビブリオバトルではお客さんを呼び込むのがとても難しく、苦労しました。しかし、全て苦労してなんとか乗り切ったあとは成功がありました。僕は図書委員長をやり苦労することが大事だと痛感しました。そして、至らぬ僕でしたが他の図書委員の支えもありすべての活動を滞りなく終えられました。皆さん本当にありがとうございました。

<ブックハンティング>

3年社会基盤工学科 **奥平 幸太郎**

ブックハンティングが催された日は、外に出ただけで汗が止まらなくなる炎天下でした。その日、僕はまだ余裕ありそうだなーと悠長に構えていた所為でギリギリの時間に家を出ることになり、会場に着く頃にはTシャツの色が半分以上変色するくらい汗まみれでした。インナーを着て汗染みを防ごうとしたのにも関わらずこのザマです。外が炎天下ということで店内は必然的に涼しい温度設定になっており、体を覆いつくさんばかりの汗は熱を持っていきながらほとんど蒸発しました。その所為で翌日、風邪を引きました。

ブックハンティングでは、前々から気になっていた本を選ぶことが出来たので有意義な時間を過ごせたと思います。参加したみなさんも多様なジャンルの本を買われていたので、「お金が無いけど本が欲しい!」という方にはオススメです。



ブックハンティングに
参加したみなさん

< POP・企画展示 >

2年社会基盤工学科 二本柳 諒

今回私は、POP制作班で自分が選んだ本のPOPを書く仕事をしました。私はもともと本を読むのが好きだったので学生図書委員会に所属しました。なので、今回のPOP制作も苦になることなく楽しんで制作することができました。また、図書館から本を借りて読むことで改めて本を読むことの面白さや、物語を知ることが出来る楽しさがわかりました。

今回のテーマは「本に恋する季節です！」なので、何度も読み返したくなるような本や、興味がわくような本、感動できる本などがそろっていると思います。また、この展示は高専祭前から行っているので、10月28、29日に開催した高専祭で、訪れた多くの皆様に見てもらうことができました。図書館を訪れた人たちが、今回私たちが制作したPOPを見て一冊でも本を手にとってくれたらと思います。また、これをきっかけに本を読むことの面白さを知っていただけたらと思いました。



～展示中の様子～



～LL文庫展示テーマ「本に恋する季節です！」本の展示～

< ビブリオバトル >

2年物質環境工学科 永峰 史琉

平成29年10月29日に大講義室でビブリオバトルが行われました。今回の発表者は、大和楓さん、桃野航太郎さん、福原龍馬さん、鶯飼敬人さん、藤田栄太さん、奥平理先生の6名で観客は約20名程でした。発表の時に緊張していた人もいましたが、どの発表者の方もそれぞれ本の魅力を伝えようと精一杯発表していました。

今回のビブリオバトルの結果は、3位が奥平理先生、2位が藤田栄太さん、1位が大和楓さんでした。この3人の発表は発表の途中に言葉に詰まることなく聞きやすく、伝えたいことがわかりやすかったです。

特に優勝者の大和さんの発表は本のあらすじを次が気になるところで止めていたので読んでみたいと思いました。

全ての発表が終わった後に観客に感想を聞く時間があり、「どの人も面白い発表だった」「もっとこういう機会を増やしてほしい」等の感想が出ていました。今回のビブリオバトルは観客に楽しんでもらえていたので、運営した図書委員として良かったです。



1位に
選ばれた
大和楓さん



～ビブリオバトルの集合写真～



[本校教員] 執筆図書紹介



平沢 秀之 (社会基盤工学科)

『土木技術者のための木材工学入門』
(土木学会)

日本は資源に乏しいと言われていますが、山には「木材」という資源が大量に存在しています。この木材を土木分野で有効に活用する目的で本書が発刊されました。これまで鋼やコンクリートが使われていた橋、ダム、ガードレール、杭基礎などにも木材が活用できることを解説しています。

中村 和之 (一般人文系)

『サハリン州博物館紀要 23号』
(サハリン州立郷土誌博物館)

「サハリン島出土の中国銭・日本銭の研究」というロシア語の論文を掲載しています。本校の埋蔵文化財研究会が調査している湧元古銭は中国の明代のお金が多いのですが、サハリン島(樺太)では清代のお金を中心である点が大きく違います。北海道の出土銭は南の本州から、サハリン島の出土銭は大陸から運ばれたものと思われることを論証しています。

学年・学科別利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2017年4月1日-9月30日)

| 学年 | 組 | 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 5組 | | 学年別計 | |
|-------|---------|---|----|-----|---------|---------------------|-------------------------------------|------------|------|
| 1年 | | 107 | 94 | 108 | 114 | 101 | 1年生がダントツトップ! 課題で新書をたくさん借りてくれました。 | 524 | |
| 学年 | 学科 | 生産システム工学科 | | | 物質環境工学科 | 社会基盤工学科 | | 学年別計 | |
| 2年 | 組 | 34 | 97 | 62 | 20 | 50 | | 263 | |
| 学年 | 学科 | 生産システム工学科 | | | 物質環境工学科 | 社会基盤工学科 | 生産システム工学専攻 | 環境システム工学専攻 | 学年別計 |
| 3年 | 機械コース | 18 | 0 | 14 | 60 | 17 | | 109 | |
| | 電気電子コース | | | | | | | | |
| 4年 | 情報コース | 50 | 9 | 0 | 116 | 34 | | 209 | |
| 5年 | | 60 | 76 | 49 | 132 | 31 | | 348 | |
| 専攻科1年 | | 3年電気電子コース・4年情報コースのみなさん、後期のご来館お待ちしております! | | | | 5年物質環境工学科がダントツでトップ! | 94 | 10 | 104 |
| 専攻科2年 | | | | | | | 10 | 3 | 13 |
| | | | | | | | | 1570 | |

・クラス別平均貸出冊数は、54冊でした。

・一番多く本を借りたクラスは5年物質環境工学科で、132冊でした。

*図書館入口前には、クラス別の『貸出冊数グラフ』も掲示しているので、後期もお楽しみに!

(総計)

編集後記

今年度も図書にまつわる記事を多くの方々から投稿いただき、無事編集にいたりしました。関係頂いた方々にお礼を申し上げます。PCやタブレット、スマートフォンによる電子図書の利用やメッセージの配信が一般的になっていますが、アナログ的な図書は、アナログ的な要素を持つ人間が物事を考え、脳を鍛えるためには欠かせないのではないかと改めて感じました。AIに任せず、図書を通じた知性の鍛錬の一助となれば幸いです。

(藤原孝洋 記)

図書館だより NO.25

独立行政法人 国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町14番1号
TEL 0138-59-6314

表紙題字：平成28年度電気電子工学科卒業 菊地浩太